



2、「子どもを見守るコミュニティ作り」について

釜、大街道地区を中心ににじいろひろばとにじいろ農園、近隣の復興住宅との連携、多世代、多属性の人々が集まる豊かな場づくりを実践した。年数を重ねることで、活動に参加する地域の子どもや大人が、農園での自分らしい過ごし方を見つけ楽しむ姿が多く見られた。対面でのワークショップや食育の時間も気兼ねなく持つことができたようになったことで、子育て世代同士や、多属性の人同時の交流が深まった。



3、「子どもの健全育成に関する講座、ワークショップ・ネットワーク作りの企画・実施・運営およびそれらへの参加・協力」について

当団体での実施は3年目となるポジティブディシプリン講座（日常的に体罰をなくし、親子がより良い関係を作るための子育てプログラム）において、他団体に周知の機会を設けたことで関心を深めることができた。また、お絵描き教室事業では子どもの権利を軸として、子どもたちの創作活動を継続することができた。



## 2 事業に関する事項

令和5年4月1日～令和6年3月31日

### (1) 特定非営利活動に係る事業

事業名	事業内容	事業回数	事業予定場所	従事者の人数	受益対象者の範囲及び人数
東日本大震災の被災児童支援の継続 【にじいろ農園 築山公園】	<b>【主な活動】</b> ・子どもの見守り活動、自然体験 <b>【使用助成金・補助金】</b> ・石巻市移動型プレーパーク支援事業補助金 ・子どもサポート基金（3割）	17回	にじいろ農園 築山公園 2カ所	5名	主として0歳～18歳未満の児童およびその保護者・近隣住民： 子ども：のべ285名 大人：のべ179名 ボランティア：のべ9名
	<b>【活動報告】</b> 釜・大街道地区を中心に東日本大震災の被災児童支援の継続の活動を実施した。にじいろ農園では地域の親子が交流しながら自然に触れ、気持ちを発散しながら遊べる居場所づくりを行った。活動を通して地域の子どもたちが土遊びやたき火、水遊び等自然に触れながら、のびのびと遊ぶことができた。下釜地区にある「船の見える築山公園」では定期的にプレーパーク活動を実施し、地域の未就学児親子、小学生、中学生が集まり、自由に絵を描いたり、虫取りをしたり、鬼ごっこ、ままごと等異年齢児同士で交流し、楽しみながら自己表現ができる場となった。				
	<b>【次年度への課題】</b> ・養育者から日常ではなかなかできないような自然体験活動に好意的な反応がある一方で、子どもたちから「お母さんに服を汚して怒られた。もう遊びに行っては駄目だと言われた」等の声もある。自然に触れる体験活動の必要性や、子どもが主体的に遊ぶことができる環境をどのようにして守ることができるかが課題である。				

子どもを見守る コミュニティ作り 【農園活動】 【農園カフェ】 【ハッピーマンデー】 【ラーメン部】	<b>【主な活動】</b> 居場所作り・遊び場作り（にじいろクレヨン活動、にじいろ農園活動） <b>【使用助成金・補助金】</b> ・子どもサポート基金（7割） ・赤い羽根共同募金 ・石巻市心の復興事業 ・トム・ソーヤースクール企画コンテスト	296回	にじいろひろば にじいろ農園	10名	主として0歳～18歳未満の児童およびその保護者・近隣住民： 子ども：のべ2,887名 大人：のべ1,414名 ボランティア：のべ94名	
	<b>【活動報告】</b> ・にじいろ農園での野菜作りや野菜を使ったラーメン作り等、農園の活動を通して地域の親子や小学生が交流する機会となった。 ・他団体との連携による「農園カフェ」の企画も継続し、さまざまな調理の活動を通して保護者・地域住民がつながる機会にもなっている。 ・上大二町内会との連携により町内夏祭りに子ども主体で企画し、出店することができた。町内会と子どもとの関わりをサポートすることで、地域の大人と子どものつながりが深まっている。 ・小学生が企画したイベントを通して地域世帯、未就学児親子と小学生が交流する機会となり、参加者同士で日常においてもお互い顔と名前がわかる関係が生まれている。					
	<b>【次年度への課題】</b> ・にじいろ農園は、保護者にとって学校の近くにあるため遊びに行かせられるという声がある一方で、自宅から遊び場の距離が遠い家庭や、遊び場の様子が伝わっていないことから保護者から放課後に遠くに遊びに出てはいけないと言われている子もいる。 ・保護者へ居場所作りの活動の周知と活動理解のためのアプローチの必要性も感じている。					
子どもを見守る コミュニティ作り 【にじいろひろば】	<b>【子育て支援拠点】</b> 「にじいろひろば」活動	184回	1カ所	4名	概ね3歳未満の児童およびその保護者： 子ども：のべ2,748名 大人：のべ1,358名	
	<b>【活動報告】</b> ・昨年度までであった様々な制限が緩和され講座では食育講座、歯科講座のお口の中のチェック等利用者のニーズに応えた講座を開くことができた。 ・今まで感染症対策の為に利用を控えていた親子が多く利用されるようになった。ランチタイムも再開することができ利用者同士でお話をしたり再開を喜ぶ声が多数あった。 ・子どもが就園就学した後も、養育者のみで立ち寄り育児の不安を吐き出してくれる等息抜きの場にもなっていたり、就園した子は降園後に遊びに来て異年齢の関わりを多くもって過ごしていた。子どもにとってもひろばが安心できる場となっている様だった。					
	<b>【次年度への課題】</b> ・情報過多による育児不安と発達不安のある親への支援 ・休日開館の要望が出てきている他、親子で安心して過ごせる場所が少ない					
子どもの健全育成に関する講座・ワークショップ・ネットワーク作りの企画・実施・運営およびそれらへの参加・協力	<b>【お絵描き教室】</b> お絵描き教室「ゴッコカン」 ・子ども教室（2ヶ所） ・大人教室（3ヶ所） ・出張保育園教室（4ヶ所） ・出張ワークショップ	90回	10カ所	4名	子ども会員及びその保護者・近隣住民・ボランティア会員： 子ども：452名 大人：202名 ボランティア：119名	
	<b>【活動報告】</b> ・子どもの権利を尊重し、子どもの声を大切にしながら制作環境の場づくりに努めた。プログラム内容は、子どもたちの「やってみよう」「作ってみよう」という声をスタッフが共に過ごす時間の中でさりげなく聞き取り、実現できるための環境設定に取り組んだ。夢中で制作に取り組んでいる子の姿を見て、他の子たちが感化される場面も多々見られた。					

	<p>・ボランティアの受け入れも昨年同様積極的に行い、継続して活動に参加するボランティアメンバーが増えてきたことで、安心・安全な場が展開できた。夏休みの高校生ボランティア体験の受け入れの場として協力も行った。</p> <p>・SNSを活用した保護者への画像付きメッセージで当日の活動の様子を伝えることができ、双方向でのやり取りもできるので、信頼関係が構築されている。Instagramも新たに開設し、教室の周知を積極的に行った。</p>				
	<p><b>【次年度への課題】</b></p> <p>・新規会員獲得のための施策          以前は展覧会などのイベントに合わせて新聞広告等で周知を行い、イベント参加者が新規会員につながるケースが多かったが、コロナ以降イベント開催も行っておらず、顧客候補の情報収集ツールもネット媒体に移行しているため、ホームページの更新や、Instagram、facebook、TwitterなどのSNS媒体の情報発信を定期的にアップデートする必要がある。</p> <p>・既存会員の継続          チケット制を導入したことにより、入会のハードルが下がったが、気軽に休める状況が生まれている。月謝制のメリットをきちんと伝え、月謝制の生徒を増やしていく工夫が必要である。</p>				
<p>子どもの健全育成に関する講座・ワークショップ・ネットワーク作りの企画・実施・運営およびそれらへの参加・協力</p>	<p><b>【講演会】</b></p>	<p>10回</p>	<p>県内 7カ所 県外(オンライン) 4カ所</p>	<p>2名</p>	<p>子ども会員及びその保護者・近隣住民・ボランティア会員 :のべ422人名</p>
	<p><b>【活動報告】</b></p> <p>・震災から10年間の活動と震災直後の子どもたちの様子やその対応への取り組みに対しての両面の社会的ニーズを感じるとともに、支援者や新たな仲間づくりとして活動を伝える機会となった。</p> <p>・オンラインを活用して、これまでの繋がりからオンラインを活用してイギリスでの活動紹介の機会を得るなど、全世界と繋がるきっかけとなった。</p> <p>・今年度は地元からの要望が多く、石巻専修大学の復興ボランティア学、日赤看護学校、好文館高校、石巻西高校の授業などで講義の機会を得られた。これから社会人となっていく若い世代へ向けて、にじいろクレヨンの活動のことだけでなくNPO等の社会的役割を伝えることができた。</p>				
<p>子どもの健全育成に関する講座・ワークショップ・ネットワーク作りの企画・実施・運営およびそれらへの参加・協力</p>	<p><b>【研修会】</b></p>	<p>12回</p>	<p>にじいろひろば 2カ所</p>	<p>16名</p>	<p>子ども会員及びその保護者・近隣住民・ボランティア会員:のべ108名</p>
	<p><b>【活動報告】</b></p> <p>・月に一度、普段それぞれの現場に入るスタッフが一同に集まる機会を設け、団体の活動方針などについて全体で検討、決定する機会を増やした。</p> <p>・地域交流の機会としてボランティアや地域住民を交えた交流会を開催し交流を深め、実践的に地域交流やボランティアコーディネートについても考える機会となった。</p>				
	<p><b>【次年度への課題】</b></p> <p>・月に一度の研修会の時間を、より団体として有意義に使うことができるように、日頃から活動内での疑問や学びを深めたいことについて視野を広げたい。</p>				

子どもの健全育成に関する講座・ワークショップ・ネットワーク作りの企画・実施・運営およびそれらへの参加・協力	<b>【協働・連携事業】</b> ・NPO 法人子どもにやさしいまちづくり ・石の会など	20 回	4 ヶ所	2 名	主として0歳～18歳未満の児童およびその保護者・近隣住民：のべ235名
	<b>【活動報告】</b> ・「石巻のプレーパークと子どもの遊びを考える会」（通称：石の会）では月一回の定例会議に参加。遊び場作り居場所作りの情報交換、ネットワーク構築の継続を目指した。 ・NPO 法人子どもにやさしいまちづくりへ柴田が理事として参画 ・NPO 法人冒険遊び場仙台みやぎネットワークに柴田が理事として参画 ・社会福祉法人花水木に柴田が評議員として参画 ・耕人塾へ柴田がアドバイザーとして参画				
	<b>【次年度への課題】</b> ・コロナもあけ、積極的に情報交換をして他団体との協働による実質的な活動を模索していきたい。				
子どもの健全育成に関する講座・ワークショップ・ネットワーク作りの企画・実施・運営およびそれらへの参加・協力	<b>【主な活動】</b> ポジティブ・ディシプリン講座 <b>【使用助成金・補助金】</b> ドコモ市民活動団体助成事業	11 回 (1 講座 9 回×1、 交流会 1 回、勉強 会 1 回)	釜会館、 石巻信金ビル 2 ヶ所	4 名	主として0歳～18歳未満の児童の養育者・児童・近隣住民・ボランティア会員： 大人：のべ91名 子ども：のべ39名 ボランティア：のべ48名
	<b>【活動報告】</b> ・「子どもや子育てをあたたく見守ってもらえる社会」の実現に向けたプログラム実施により、罰を用いない子育てへの理解を深め、育児ストレスからの児童虐待のリスク軽減につながった。「日々の生活の中で気づきが増えた」「自分を見つめなおす機会になった」「親はこうでなければいけない、という理想通りでなくても良いと思えた」「子育ては一人ではできないと改めて思った」「プログラムに参加してたくさんのヒントをもらえた」など参加者には前向きな行動変容がみられた。 ・プログラム参加者が託児ボランティアとして協力できる仕組みによって相互保育を体験し地域の子育てを見守る人材の育成、地域交流の継続にもつながった。 ・子育て支援団体、石巻市議に参加を促し行った、勉強会においてどの団体も地域の見守りなど児童虐待予防活動と関連があることに気づきがあり、協力体制が強まった。				
	<b>【次年度への課題】</b> ・講座参加者が、講座終了後も孤立することなく子育てについて話せる環境の設定 ・講座参加者が、自分の子ども以外にも気に掛ける存在を増やすことで孤立予防や、コミュニティ作りの促進 ・養育者や地域の誰もが子どもの権利やポジティブ・ディシプリン®を知るための周知活動の促進				
その他、この法人の目的を達成するために必要な事業	今年度実施なし	—	—	—	—

### (3) 地域社会や他団体との連携について

石巻市福祉部子育て支援課、石巻市社会福祉協議会、石巻市立釜小学校、石巻市蛇田小学校、石巻市青葉中学校、石巻市蛇田中学校、NPO 法人こども∞感ばに一、NPO 法人ベビースマイル石巻、NPO 法人 TEDIC、NPO 法人子どもにやさしいまちづくり、石巻のプレーパークと子どもの遊びを考える会（石の会）、石巻市子どもセンターらいつ、認定特定非営利活動法人冒険あそび場-せんだい・みやぎネットワーク、認定特定非営利活

動法人杜の伝言板ゆるる、石巻専修大学など